

濟南事件報告會議筆記

昭和三年五月十六日

正

国立公文書館
利用上の注意

は、非公開の席上における発言を記録したものであります。したがって当該発言者の共同著作物と解されますので、引用等発表に際し著作権法上の問題の生ずることのないよう特に御配慮願います。

国立公文書館

分類

配架番号

2 A

15-10

①D 636

樞密院會議筆記 濟南事件報告

國務大臣ノ報告

(定例參集後本
院議場ニ於テ)

昭和三年五月十六日(水曜日)午前十時二十五分
開會

出席員

倉富議長

大臣

田中

内閣總理大臣
兼外務大臣

岡田海軍大臣

白川陸軍大臣

中橋商工大臣

望月遞信大臣

原 司法大臣

水野文部大臣

顧問官

伊東顧問官

久保田顧問官

富井顧問官

井上顧問官

平山顧問官

石黒顧問官

珍田顧問官

黒田顧問官

古市顧問官

松室顧問官

江木顧問官

内田顧問官

荒井顧問官

河合顧問官

齋藤顧問官

鎌田顧問官

前田法制局長官

殖田内閣總理大臣秘書官

井出陸軍大臣秘書官

二上書記官長

書記官

堀江書記官

武藤書記官

倉富議長 豫テ通知セシ通只今ヨリ支那ノ時

局ニ就キ内閣總理陸軍海軍ノ三大臣ヨリ報

告アリ若シ質問アラハ例ニ依リ報告ノ終了

後ニ於テセラレタシ

田中内閣總理大臣 濟南事件ノ經過及處置ニ

付報告スヘシ昨年八月山東軍ヲ撤退スル際

在留多數邦人ノ生命財産ニ損害ヲ及ホス虞

アル場合ニ於テハ何時ニテモ必要ナル行動

ヲ執ルヘキ旨ヲ聲明セリ然ルニ本年四月山

東ニ於ケル南北兩軍ノ狀況俄ニ變化シ動亂

ノ影響力再ヒ在留邦人ニ波及スルノ虞生シタル爲四月下旬ニ到リ遂ニ第六師團ヲ濟南地方ニ派遣スルニ到レリ然ルニ五月三日濟南ニ駐屯セル南軍ノ部隊カ居留邦人ノ家屋ヲ掠奪シタルヲ以テ我軍ハ直ニ之ヲ防止セムトシタルニ反抗セル爲己ムナク發砲シ一時交戰狀態トナレリ其ノ後同月十一日ニ到リ我軍ハ南軍ヲ濟南ノ二十支里外ニ擊退シ支那側ノ總務商會其ノ他ノ團體代表者ト會見シ能ク我軍ノ立場ヲ諒

解セシメ市内ノ秩序ヲ維持スル爲特ニ濟南地方治安維持所ヲ設ケ我軍援助ノ下ニ田雄房ヲシテ之ニ當ラシメ秩序ノ回復ニ協力セルヲ以テ民心漸ク安定ニ向ヘリ山東ニ我軍隊ヲ派遣シタルハ我居留民ノ保護及交通ノ確保カ其ノ唯一ノ目的ニシテ南軍脅懲等ノ意ナク南北兩軍ノ行動ニ對シテハ可成障害ヲ與ヘサラムコトヲ注意セリ之ヨリ先山東ニ軍隊派遣ノコト決スルヤ國民政府竝北京政府ハ之ニ對シテ抗議ヲ申込ミ

タルカ今次ノ濟南事件ニ對シテモ國民政府ヨリ抗議ヲ申出テ北京政府モ亦形式的ニ抗議ヲ爲セリ國民政府ノ幹部ニ於テハ内心濟南事件ヲ以テ日支國交上ノ遺憾事トシ北軍討伐ノ途次日本ト事ヲ構フルノ甚タ不利ナルヲ考ヘ平和ニ解決セムコトヲ希望セルカ如シ又排日運動ニ付テモ共產黨ノ橫暴ヲ恐レテ之カ取締ニ努力シ居レリ然レハ濟南事件ノ通報各地ニ到達セルモ北京政府ノ勢力ノ及フ範圍内ニ於テハ之ニ刺戟セラレテ日

貨排斥ヲ激發シタル事實ナク又南方上海ニ於テハ學生青年躍起トナリテ宣傳運動ヲ爲シ本月十日頃ヨリ國民黨幹部ノ有力團體カ對日經濟絕交ヲ決議シ稍具體化セムトスルノ狀アレトモ今日迄在留邦人ノ被リタル打撃ハ多大ナラス南京ニ於テハ民心不穩ノ兆アル爲居留民及領事館員ハ江岸迄引上居レルモ其他ノ地方ハ格別惡化ノ報ナシ但シ帝國政府ニ於テハ萬一ノ場合ニ備フル爲相當ノ軍艦ヲ各地ニ派遣シ各領事ニ對シテモ

機宜ノ處置ヲ誤ラサル様訓令セリ
歐米列國ニ對シテハ在外使臣ヲシテ我出兵
竝濟南事件ニ關スル詳細ナル説明ヲ爲サシ
メタル爲列國ノ當局ハ能ク之ヲ了解セリ濟
南事件ニ對スル列國新聞ノ論調ハ北京ニ於
テハ支那國民ニ同情シタルモノアリ又歐米
ニ於テモ支那側ノ宣傳盛ナル爲英米伊ノ新
聞中ニハ我軍ノ真意ヲ疑ヒタルモノアレト
モ其ノ他ニ於テハ一般ニ帝國ノ行動ヲ是認
スル態度ナリキ尚軍事上ノ行動ニ付テハ陸

軍大臣及海軍大臣ヨリ報告スル筈ナリ
要スルニ濟南事件ノ發生ハ洵ニ遺憾トスル
所ナリ然レトモ本官ハ斯ノ如キ共產黨系ニ
屬スル支那軍隊ノ殘虐暴戾事件ノ發生前彼
地ニ我軍隊ヲ駐屯セシメタル爲在留邦人ノ
慘害ヲ彼ノ程度ニ止メ非常ノ事態ニ立至ラ
シメサリシヲ寧口喜ヘル次第ナリ
山東鐵道ハ濟南ノ居留民及之ヲ保護スル軍
隊ヲ維持スル上ニ於テ極メテ重要ナル關係
ニアルノミナラス其ノ沿線ニハ淄川博山其

ノ他邦人ノ事業地アリ又居留民モ多數ナルヲ以テ之カ保護ハ當然ノ必要事ナリトス而シテ青島山東鐵道濟南ノ三者ノ間ニハ不可分ノ關係アリテ濟南在留ノ邦人ノ保護上ニ於テハ之ヲ一團ノモノトシテ考慮セサルヘカラスト思料ス尚質問アラハ陸海軍大臣ヲシテ夫々答辯セシムヘシ

白川陸軍大臣 山東ニ派遣シタル軍隊ノ行動ニ付申上ヘシ

徐州ノ北方張索口ニ在リシ北軍ハ四月初南

軍ニ破レテ退却シ第一線第二線ノ防禦地ニ於テモ殆ト對抗スル所ナク戰局ハ意外ニ急速ニ進展セリ依テ我軍ハ現地保護ノ方針ニテ四月十九日取敢ヘス天津駐在ノ步兵三中队ヲ濟南ニ送レリ次テ第六師團ヲ青島及濟南ニ送り同時ニ山東鐵道ヲ守備スルコトトセリ此ノ軍隊ノ出動ハ全然我居留民ノ保護ヲ目的トスルモノニシテ南北兩軍ニ對シテハ全ク公平ノ態度ヲ執レリ天津部隊ハ二十日ノ夜濟南ニ到着シ第六師團ハ門司ヨリ乘

船シ其ノ先發隊ハ二十六日ヨリ二十八日ニ
互リテ濟南ニ到達シ内歩兵一大隊ヲ博山ニ
分遣シ天津部隊ト共ニ居留民ノ保護ニ任セ
リ後發隊ハ四月二十八日迄ニ青島ニ到著シ
暫ク該地ニ駐屯スル豫定ナリシ處濟南ノ狀
況危急ナリシ爲旅團長ハ自ラ歩兵一箇聯隊
ト砲兵一箇中隊トヲ率テ途スカラ鐵道ヲ修
復シツツ汽車ニテ張店マテ前進シ其ヨリ徒
歩ニテ辛ク著濟シタルハ五月二日ノ朝ナリ
キ其ノ頃ニハ山東軍ハ已ニ濟南ヲ退却シ孫

張ノ兩將モ亦三十日ノ夜行列車ニ搭乘シテ
退濟セリ然レハ南軍ノ兵馬ハ續々トシテ濟
南ニ入り來リ南軍ノ司令蔣介石モ亦五月二
日ヲ以テ入濟セリ仍テ我軍司令部ハ彼我ノ
誤解ヲ防キ事故ヲ豫防セム爲力メテ意思ノ
疏通ヲ計レルヲ以テ兩軍ノ間ハ極メテ圓滿
ナリキ然ルニ其ノ後南軍ヨリ我軍ニ對シ商
阜地防備ノ撤廢ヲ懇請シ來レルヲ以テ我軍
ニ於テハ南軍ノ態度ノ平穩ニシテ蔣介石ノ
信賴スヘキヲ信シ其ノ懇請ヲ容レテ之ヲ撤

廢シ唯若干ノ兵員ノミヲ配置セリ然ルニ五月三日ノ午前九時頃ニ到リ濟南城外ノ邦人住宅ニ掠奪起レリトノ報アリ依リテ直ニ之ヲ防止スヘク巡查ヲ派遣シタルモ反テ支那軍兵ノ爲毆打セラルルニ至リタルヲ以テ天津部隊ノ条川大尉ハ二十名ノ歩兵ヲ率ヰテ鎮定ニ赴キ支那ノ軍隊ハ一旦逃走シタルモ聽テ我兵士ニ對シテ射撃ヲ始メタルヲ以テ我モ之ニ應シテ射撃ヲ開始セリ之レ事ノ發端ナリ而シテ此ノ小部ノ射撃起ルヤ商阜地

ノ各方面ニ於テモ殆ト同時ニ銃聲起リ掠奪始マリ邦人ニシテ虐殺セラルル者ヲ出セリ依リテ我軍司令部ハ直ニ曩ニ蔣介石ノ司令部ニアリシ佐々木中佐ヲ蔣ノ許ニ派遣シ射撃ヲ停止セムコトヲ要求セシメタルモ支那兵ノ爲自動車ヨリ引卸サレ大ニ暴行ヲ受ケタリ偶面識アル總司令部員ノ發見スル所トナリタルヲ以テ其ノ保護ヲ受ケ翌日ニ到リテ歸來セリ蔣介石ニハ敢テ我軍ト戰フノ意ナク射撃中止ノ命ヲ發シタルモ徹底セサリ

シモノノ如ク四日朝ニ到リ支那軍ヨリ停戦
申込アリタルヲ以テ我軍モ之ヲ應諾シタリ
其ノ後支那兵ノ大部分ハ商阜地内ヨリ退去
シタルモ蔣ノ命令尚能ク行ハレサルヲ以テ
我軍ハ進テ残兵ノ强行掃蕩ヲ斷行シ五日ニ
到リテ完全ニ平定スルコトヲ得タリ
居留邦人ノ被害状態ヲ調査シタルニ死傷數
十名掠奪百件以上ニ達セリ支那側ニ於テハ
我軍ニ於テ支那人十一名ヲ虐殺シタルカ如
ク宣傳セルモ事實サルコトナク只我軍ニ對

抗セル若干ノ支那兵ヲ射殺セルノミナリ現
ニ當時我旅團司令部ニ保護セラレタル黃郛
(外交部長)モ支那軍ヨリ發射シタル事實ヲ確
認シ且其ノ虐殺行爲ヲ嘆息シタリ
之ヨリ先第六師團長ハ岩倉歩兵旅團ニ命シ
青島ニ残留シテ之カ守備ノ任ニ當ラシメタ
ルカ同旅團長ハ濟南ノ事變ヲ聞キ獨斷ニテ
青島ヲ發シ五日夕刻ヲ以テ濟南ニ到着シタ
リ然レトモ中央當局ニ於テハ濟南内外ノ情
勢ハ第六師團ノ外尚増兵ノ必要アルヲ認メ

タルヲ以テ更ニ關東州駐屯ノ外山旅團及砲
兵一箇中隊ノ山東發向ヲ命セリ
其ノ後第六師團長ハ濟南ノ安全ヲ確保スル
爲殘留支那兵ヲ城内ヨリ撤退セシムルノ必
要ヲ感シ五月五日蔣介石ニ對シテ商阜地ニ
於ケル暴虐行爲ノ責任者ヲ嚴罰シ其ノ武裝
ヲ解除シ爾後濟南ノ周圍二十支里(三哩強)内
ニ軍兵ヲ入ラシメサルコトヲ要求セリ然レ
トモ其ノ回答要領ヲ得ス其ノ態度誠意ヲ闕
クモノアリシヲ以テ同師團長ハ遂ニ我武力

ヲ以テ之ヲ擊攘スルノ意ヲ決シ八日朝ヨリ
攻撃ヲ開始シ午後一時頃ニ到リテ濟南ノ南
方ニ位置シタル南軍ヲ擊攘セリ外山旅團モ
亦八日朝途中ヨリ下車シテ支那兵ヲ擊退シ
九日朝濟南ニ到著シテ鐵北ノ兵ヲ驅馳セリ
此ノ交戦ニ於ケル敵ノ死者ハ約三百名ナリ
キ
斯ノ如クニシテ濟南城ノ外周二十支里以内
ニ於テハ支那兵ヲ驅馳スルコトヲ得タルモ
尚約四千ノ殘兵ハ依然トシテ城内ニ立籠リ

飽迄我軍ニ對抗セリ然レトモ城内ニハ多數
ノ支那住民アリ直ニ砲火ヲ以テ殘兵ヲ攻撃
スレハ之ヲ害フノ虞アル爲特ニ飛行機及支
那人ヲ以テ降伏ヲ勸告シタルモ頑迷遂ニ之
ニ應セス仍テ第六師團長ハ已ムナク城内ノ
砲撃ヲ開始シ十日ノ夜陰ニ乘シテ城門ヲ爆
破シ進軍シタルヲ以テ十一日ノ未明ニハ全
ク逃亡シ濟南城ノ内外始メテ平穩ニ歸シタ
リ其ノ後支那兵四千博山ニ向フトノ報アリ
シモ今尚無事ノ様ナリ然レトモ尚濰縣附近

ニハ山東軍ニ屬スル支那兵二萬許アリ濟南
附近ニハ南軍約四萬アルニ對シ我兵數ハ僅
ニ五千ニ過キサルヲ以テ少クトモ六七倍ノ
敵ヲ相手トセサルヘカラサル爲中央當局ニ
於テモ之ヲ配慮シ更ニ第三師團ニ對シテ動
員ヲ命セリ其ノ先發隊ハ今後三四日ノ後ニ
ハ青島ニ到著ノ豫定ナリ青島濟南間ノ鐵道
ハ其ノ延長我百四里ニ互リ之ヲ我軍ノ手ニ
確保スルハ在留邦人ノ保護及用兵上ニ於テ
不可缺ノ緊要事ニシテ之カ爲ニハ相當多數

ノ兵員ヲ要ス之レ第三師團ノ動員出兵ヲ見
ルニ至リタル理由ノ一ナリトス

岡田海軍大臣 此ノ度ノ支那ノ事變ニ對スル
我海軍ノ對策及支那各地ノ狀況ヲ報告スヘ
シ四月中旬以來山東方面ノ情勢惡化シ五月
ニ入リ濟南ニ於テ日支兩軍ノ衝突ヲ見ルニ
至リタル結果其ノ餘波力漸次支那各地ニ波
及セムコトヲ顧慮シ萬全ヲ期スル爲第一遣
外艦隊ニ第二十五驅逐隊(四隻)ヲ又第二遣外
艦隊ニ第二十八驅逐隊(三隻)及常磐ヲ増派シ

又聯合艦隊ヨリ能登呂(飛行機八臺搭載)ヲ青
島方面ヘ阿武隈神通及驅逐艦二隊(八隻)ヲ揚
子江流域ニ驅逐隊二隊(六隻)ヲ南支方面ニ増
派セリ故ニ目下支那方面ニ於ケル我艦船ノ
總數ハ五十三隻人員約一萬人ニ達セリ
今十六日ニ於ケル各地ノ配備ヲ具體的ニ述
ブレハ左ノ如シ

北支方面

塘沽

驅逐艦

二

龍口

同

三

芝罘 同 二

海州 同 一

青島 球摩 對馬 常磐 能登呂

青島屯在ノ陸軍部隊前進シタル爲右

艦船ノ陸戰隊及特別陸戰隊計八百五

十名ヲ上陸セシメ嚴重警戒セリ

中支方面

上海 利根 安宅 外驅逐艦 三

特別陸戰隊 七百名

吳淞 驅逐艦 一

蕪湖 同 二

九江 同 二

長沙 同 一

沙市 同 一

宜昌 同 二

重慶 同 一

南京 阿武隈 神通

漢口 矢矧 嵯峨外九隻

南支方面

福州 驅逐艦 三

厦門

同

三

汕頭

同

三

廣東

宇治

葵

以上我警備艦ノ任務ハ專ラ在留邦人ノ生

命財産ヲ保護スルニ在リ已ムヲ得サル場

合ニ於テハ之ヲ安全地域ニ避難セシメ又

ハ警備艦内ニ收容スル方針ニシテ緊張シ

テ任務ニ服セリ

次ニ各地方ノ近況ヲ報告スヘシ

北支方面 天津方面ノ時局切迫シ去ル十四

日我天津總領事ヨリ至急驅逐艦來援ノ申請

アリ蓼蓬ノ二艦青島ヨリ陸兵百八十名ヲ乘

セテ十五日塘沽ニ到著セリ芝罘ニ於テモ二

隻ノ驅逐艦ヨリ百八名ノ陸戰隊ヲ上陸セシ

メテ警戒セリ

中支方面 上海ニテハ新聞ノ論調漸次惡化

シ排日的集會モ行ハレ邦人ニ對スル一二ノ

非行モアリテ我陸戰隊ハ哨兵ヲ配置シ鐵條

網ヲ張リテ嚴重ニ警戒セルカ去ル十一日以

來綿糸布砂糖ノ取引ヲ停止シ經濟的絶交ヲ

企圖シ今後ノ變化豫想シ難キモノアリ
南京ニ於テハ政府ノ排日取締最モ嚴重ナル
モ萬一ヲ慮リ領事以下邦人全部ヲ安全地域
ニ移シ我軍艦ノ保護ヲ受ケシメ居レルヲ以
テ目下ノ所安全ナリ蕪湖ハ日偵排斥不買同
盟等ヲ企テ邦人使用ノ支那人ニ對スル迫害
漸ク増加ノ模様アリ漢口ニ於テモ支那紙ノ
論調ハ排日的ナルモ未タ大ナル影響ナシ其
ノ他重慶宜昌長沙九江等ハ何レモ比較的平
穩ナリ

南支方面 福州厦門汕頭等ノ官憲ハ何レモ
排日ヲ取締リ今日マテ靜穩ナルモ激シ易キ
廣東人ナルヲ以テ同地方ニ於テハ何時事故
ノ突發スルヤ測リ難キモノアルヲ以テ邦人
ヲ汕頭方面ニ避難セシメテ十分警戒シ居レ
リ

黒田顧問官 支那ニ於ケル動亂ノ狀況如何ニ
依リ邦人ノ生命財産及我利權擁護ノ爲皇國
ヨリ出兵スルコトアルヘキヤ否ニ付テハ曩
ニ本官ヨリ御尋シタル所ナルカ今般再ヒ我

出兵ヲ餘儀ナクセラレタルコトハ甚タ遺憾
ナレトモ已ムヲ得サルコトト考フ幸ニ我陸
軍ノ活動ニ依リ濟南事變ハ已ニ一段落ヲ告
クルコトヲ得タルモ天津北京方面ノ事態ハ
逐日急迫ヲ告クルモノノ如ク而モ此ノ動亂
ハ勢ヒ滿洲ニモ波及スルコトナキヤ本官ノ
憂フル所ナルカ政府ハ之ニ對シテ如何ナル
方針ヲ有セラルルヤ伺ヒタシ
田中外務大臣 第三師團ノ動員出動ノ命令ヲ
奏請シタルハ以テ濟南事件ノ變化ニ應セム

トスルハ勿論其ノ理由ノ一ナリト雖今次ノ
動亂ハ漸次天津北京ニ及ヒ或ハ遂ニ滿洲方
面ニ波及スルノ虞ナシトセサルヲ以テ濟南
事件ノ擴大ヲ未然ニ防遏スル爲之ヲ有效ナ
リト信シタル爲ニ外ナラス南軍ノ勢力愈天
津方面ニ波及スルトキハ卽チ之レ南北兩軍
ノ大勢既ニ定マル時ニシテ滿洲方面ノ警戒
ヲ要スルニ到ルヘク政府ハ如何ナル事態力
發生スルモ之ニ應スルノ用意アリト承知セ
ラレタシ

井上顧問官 外務大臣ニ伺ヒタシ(一)支那側ヨ
リ濟南事件ノ解決ヲ國際聯盟ニ持出スモ之
ヲ受付ケサリシトノコトナルカ如何ナル事
情アルモ絶對ニ之ヲ受理セスト考ヘテ可ナ
ルヘキヤ(二)支那ハ濟南事件ニ關シテ米國ニ
使ヲ遣リテ調停ヲ依頼セリトノコトヲ聞ク
果シテ其ノ事實アリヤ事實アリトセハ米國
ハ之ニ對シテ如何ナル態度ニ出ツヘキカ其
ノ邊政府ニ於テ御確メノコトト思ハルルニ
付御示ヲ乞フ(三)次ニ排日宣傳ノコトナルカ

支那側ニテハ十分取締ノ手段ヲ講セリトノ
コトナレトモ或方面ノ報告ニ依レハ南北ト
モ官邊ハ排日宣傳ヲ是認スルカ如キ態度ア
リトノコトナリ事實果シテ如何

田中外務大臣 (一)國際聯盟ノ態度ハ報告シタ
ル通りナリ然レトモ今後モ尚同事件ハ絶對
ニ受付ストハ思惟スルコト能ハス之ヲ受理
セサルハ南京政府ヲ認メサルカ爲ナレハ今
後ハ慎重ノ考慮ヲ要スト考フ(二)米國ノ調停
ニ付テハ確報ナシ南方ニ於テ米國領事ニ依

頼シタリトノコトヲ聞ケルモ確ナラス(三)排
日宣傳ノコトハ本官ノ知レル範圍ニ於テハ
南方政府ハ此ノ際日本ト何等ノ敵意ヲ構ヘ
サルコトカ北伐ノ爲有利ナリト考ヘ極力日
本ノ感情ヲ害セサルコトニカメツツアルカ
如シ南北一致シテ排日ノ煽動ヲ爲セルカ如
キ事實ニ付テハ未タ其ノ報告ヲ聞カス
石黒顧問官 虐殺掠奪ヲ蒙リシハ日本人丈ナ
リシヤ
田中外務大臣 日本人丈ナリ

石黒顧問官 何故日本人丈虐殺掠奪ヲ蒙リタ
ルカ其ノ理由ヲ取調ヘタルヤ
田中外務大臣 日本人ニ多數ノ被害アリシハ
一時警戒線ヲ撤シタルニ依リ安心シテ外ニ
出テタル爲又ハ自ラ我軍ノ警戒區域内ニ入
ルコトヲ肯セサリシ爲ナリト聞ケリ南京事
件ノ際ト同シク日本帝國主義打倒ナトト記
シタル排日宣傳片ヲ撒キ共產主義的軍隊カ
日本ト何カ事ヲ構ヘムト企テタルモノノ如
シ

江木顧問官 (一)天津方面ノ警備ニ付テハ列國
申合ヲ爲セルモ米國ノミ單獨ノ行動ヲ執レ
リトノコトナルカ果シテ然ルカ其ノ理由如
何(二)我居留民ヲ侵害スル者ヲ徹底的ニ膺懲
スル爲出兵スルハ本官ノ同意スル所ナレト
モ動員令迄下ササルヘカラサル事由何處ニ
アリヤ曩ニ派遣シタル第六師團ハ見事ニ戰
ヘルニ非スヤ(三)而シテ出兵ノ員數ニ到ルマ
テ新聞ニテ花々シク報道スル爲外國人ノ驚
クハ當然ナリ何故ニ此ノ如クセサルヘカラ

サルヤ又支那人カ無辜ノ居留邦人ニ對シテ
残忍極マル暴虐行爲ヲ敢テセル寫眞ヲ新聞
紙ニ掲載スルコトヲ許ササルニ拘ラス我兵
力支那兵ヲ捕ヘ之ヲ柱ニ縛リ付クル寫眞ノ
如キモノノ掲載ハ全ク之ヲ放任シテ顧ミサ
ルハ如何ナル理由ナリヤ

田中外務大臣 (一)天津ノ警備ニ關スル各國軍
司令官ノ意見ハ大體一致セリト考フ只天津
ヲ距ルコト二十支里ノ線ヲ以テ天津ノ警備
區域線ト爲サムコトヲ協議シタル際米國ノ

駐屯軍司令官ハ「サル事ニ付テハ本國ノ訓令ヲ要スト言ヘリト謂フコトナリ尚此事ニ付テハ陸軍大臣ヨリ申上クヘシ」(二)動員セスシテ出兵セムト考ヘタルモ各所ニ平時編成ノ兵ヲ動カストキハ戰時編成ヲ爲スコト困難ノ事情アルヲ以テ陸軍大臣ノ動員要請ハ相當理由アリト考ヘタリ(三)寫眞ノ新聞紙掲載ニ付テハ注意ヲ與ヘタルモ徹底セサリシヲ遺憾トス

白川陸軍大臣

(一)天津ノ警備ニ付テハ列國協

同シテ之ニ當ルコトト決セルモ支那ノ軍隊ヲ警備線内ニ入レサルコトニ就テハ賛否相半セリ英國ハ賛同シタルモ米國ハ本國ノ訓令ヲ求メタリ(二)動員令ヲ出シタルハ第六師團ノ出動アリト雖其ノ附近ニハ三四萬ノ南軍アリ今後ノ變測ルヘカラス而モ百餘里ニ亘ル山東鐵道ヲ警備スルノ必要アルヲ以テ動員ノ必要アリト爲ス參謀本部ノ主張ニ同意シタル次第ナリ(三)日本軍力支那兵ヲ縛スル狀況ヲ撮影シタル寫眞ヲ新聞紙ニ掲載シ

タルハ不都合ト思ヒ内務省ニ注意シ當業者
ヲ戒シメタリ邦人虐殺ノ寫眞ノ如キハ却テ
之ヲ掲載スルヲ可ト思ヒ新聞社ニ内示シタ
ルコトアルモ新聞側ニテハ之ヲ掲載セサリ
シナリ

内田顧問官 先刻外務大臣ハ支那軍隊ニ於ケ
ル共產黨ノ計劃的行動ニ言及セラレタルカ
的確ノ證據アリヤ詳細ノ報告ヲ願ヒタシ後
日必スヤ濟南事件ノ責任ハ日支何レニアリ
ヤノ問題起ルヘク結局ハ國際聯盟ノ問題ト

爲ルモ厭ハサル覺悟ヲ要スヘシト考フ現ニ
外國人タル一通信員ハ其ノ本國新聞ニ打電
シテ虐殺ハ日本カ出兵シタルニ因リテ起レ
リト報道セリ外國人ハ一人モ虐殺セラレタ
ル者ナシトノコトナルヲ以テ何レ支那側ノ
利用スル所トナルヘシト考フルヲ以テ此ノ
點ニ付テハ十分ノ調査ヲ希望ス次ニ現地保
護ノ方針ニテ出兵セリトノコトナルカ今次
ノ濟南事件ハ支那人ノ腦裏ニ一層排日ノ感
情ヲ深カラシメタルコトト思ハル目下ハ北

伐ノ途中ニ在ル故差控ヘ居レルモ將來彼等
ニ便宜ノ時到ラハ必スヤ更ニ排日ヲ企ツル
コトナキヤ憂慮ニ堪ヘス
尚支那各地ニ於ケル我居留民ノ財産生命ニ
付危害ヲ蒙ルヘキ虞發生スルトキハ現地保
護主義ノ下ニ各地ニ出兵スルコトヲ得サル
ヘキヲ以テ其ノ場合ハ邦人ヲ或地點ニ引揚
ケシメテ之ヲ保護スル方針ナリヤ此等ノ點
ニ付明答ヲ願ヒタシ
田中外務大臣 共產黨ノ策動力原因ヲ爲シタ

ルコトハ宣傳片等ニ依リテ大體明カナリ賀
耀祖ノ軍隊中ニモ共產系ノ者アリ又湖南ノ
軍兵中ニモ共產系ノ者アリテ同一行動ヲ爲
セルモノト考ヘラル彼等ノ行動力何レモ計
劃的ナリシコトハ顯著ナル事實ナリ方振武
ノ軍中ニモ共產系ノ者アルヤ知ルヘカラス
又我居留民ノ保護ハ別ニ現地保護主義トシ
テ一定セルニアラス臨機或ハ收容保護スル
コトアルハキ考ヘナリ

倉富議長 各大臣ノ詳細ナル報告ニ對シテ謝

意ヲ表ス本日ハ之ニテ閉會ス

(午前十一時三十五分閉會)

議長男爵倉富勇三郎

書記官長山下久治

書記官

堀江孝雄

武茂盛雄